

アトピー性皮膚炎の原因物質は？

最近のアトピー性皮膚炎の原因となっているものが何なのかを調べる機会があり、約 350 名の初診の方の皮疹に関わるアレルゲンを調べてみました。

乳児期、幼児期、学齢期、青年期、壮年期、老年期に分けて調査しました。各年齢層を通して大きく影響するアレルゲンは、ほぼ同じような傾向にあることを再認識しました。

食物では、卵は 3~4 割、牛乳は 3 割、肉類も 3 割程の人のアレルゲンとなっていました。小麦、大豆、米、魚、ソバ、ピーナッツ、ゴマは各々 1 割前後でした。添加物では、最近の香料ブームを反映しているのか、約半数の人が何らかの香料アレルギーでした。食生活の乱れやすい青年期では、グルタミン酸ナトリウムや発色剤等の添加物が 1~2 割あり、どの年齢層よりも多く見られました。

環境因子では、合成洗剤がトップで 4~6 割の人のアレルゲンでした。合成洗剤の“進化”のせいでしょうか、香料も強烈になりアレルギーをおこしやすく、また、においの依存症にもなりやすくなってきました。ペットブームを反映して、犬・猫毛が 5 割近く、また、羽毛（布団やコート）も 5 割近くありました。花粉は、乳児期は 1~2 割と少ないですが、学齢期以降は 5 割を越えて大きな影響をもたらしています。また、3 人に 1 人の女性ではナブキンアレルギーがみられます。黄砂、タバコ、ラテックス、金属は各々 2 割前後です。IgE-RAST 値の高いダニ、ハウスダストや排気ガス、農薬、カビ、化繊、新建材等は 1 割程度です。

また、3・11 原発過酷事故以来、放射性セシウム汚染により、放射性セシウムをアレルゲンとして反応しているアトピーの人々が現れ始めました。どこを探してもアレルゲンになるという説はないのですが、何度も確認しながら、事実である為、アレルゲンの調査項目に入れました。約 2~3 割の人の皮膚にアレルギー反応を引き起こしています。放射性セシウムに対する反応は個人差が大きく、中には放射性セシウムのみがアレルゲンであった人も数人おられました。

乳児期では、食物アレルギーの方がやや多く見られ、ハウスダスト、ダニ、花粉の関与が少ないようですが、合成洗剤、ペット、羽毛、香料は各年齢層に高い頻度で見られます。

原因がよくわからないアトピー性皮膚炎の方は、頻度の高いものの中に、除去すべきアレルゲンが潜んでいる可能性が大きいと思います。出来る所から、除去を始めてみても良いかも知れません。免疫力の高い人は、その人にとっての大きなアレルゲンを取り除くと、小さなアレルゲンは、自分の力で処理して消えてしまう事がよくあります。ところが、免疫力の低下している人は、大きなアレルゲンを取り除くと、それまで隠れていたアレルゲンが次々と出てきます。それらのアレルゲンもすべて取り除いて、体への負担を軽くしてあげると、免疫力も回復してきます。一人一人顔が違うように、アレルギーの原因も、症状の出方も違います。迷った時や、やってみただけで、よくわからない時は、受診して下さるようにお勧めします。

皮疹が長引いたり、ステロイド治療歴の長い人は、皮膚に常在するカビや細菌の出す毒素にアレルギーを起こし、痒くなり、ひっかき、浸出液に細菌が増え、悪循環を起こしている事もあります。抗菌剤の内服や外用を行ったり、消毒剤治療（イソジン、ヒビテン、強酸性水、玉川温泉水、硫黄の温泉水）が有効な時があります。

アレルギーの原因は、社会とともに変化してきており、治療法も変わってきています。しかし、どんなに変化しても、からだに有害な物を取り除き、体調を良くする事は、治療上重要なことです。